

モーリシャスの環境回復・ 地域社会へ貢献



MOLチャリタブルトラスト現地運営委員

当社がチャーター（傭船）していたばら積み貨物船「WAKASHIO」がインド洋の島国、モーリシャス共和国沖で昨年7月25日に座礁し、同8月6日に燃料油が流出した事故から1年以上が経過しました。当社は、本船を保有する船主との間で傭船契約を結び本船を利用していた関係者として、事故後直ちに現地に社員を派遣、流出油回収用の資材を提供するなど、油濁の早期除去に注力しました。また、モーリシャスと日本の関係当局、国内外の関係者と連携し、中長期的な視野で現地のニーズに応じた支援を行い、環境回復や地域社会への貢献に取り組んでいます。

この事故は、現場となった水域、地域の自然環境、地域社会とその産業に大きな影響を及ぼしました。事故直後から、当社は社長の指揮の下、関係部署横断で緊急対応を行いました。状況が落ち着いてきた昨年9月1日には、現地を支援するための常設組織として「モーリシャス環境・社会貢献チーム」

を設置して、中長期的な取り組みを本格的に始動させました。当社が傭船者の立場として、社会的な責任の重大さから、モーリシャスの環境回復と社会貢献に取り組むためです。

事故直後より継続して現地に当社グループ社員を派遣して活動を行ってききましたが、昨年10月からは、駐在員事務所としてMOL (Mauritius) Ltd. を開設して駐在員を置き、同国の政府や関係団体などと連携しながら現地での活動を支援しています。

今年6月には、モーリシャスの地域社会・市民生活へのきめ細かな支援活動を機動的にサポートすることを目的とする基金「MOLチャリタブルトラスト」を同国に設立。当社は昨年9月、被害を受けたマングローブ、サンゴ礁、海鳥などの自然環境を保護・回復するプロジェクトを遂行するために、総額8億円規模の基金を設立する計画を発表しました。その一部として、「MOLチャリタブルトラスト」に約3億円

の拠出を予定しております。今年11月以降には、日本国内の個人・法人からの寄付の受け入れが可能となる公益信託基金も設立予定です。モーリシャスが事故による影響から回復することに加え、環インド洋地域のリーディング国として、また日本の友好国として、その存在感を世界に示せるように、協力、支援を行っていきます。

また、今回のような事故が起きないように、当社として再発防止策を策定し、取り組みを進めています。推定される事故原因に基づいて、当社の安全運航へのこれまでの取り組みに対して、運航の現場である本船側だけでなく、当社の陸上側からの支援体制、船主や船舶管理会社の管理体制を含めて一から見直しました。当社、本船、船主を含む関係先とともに、安全品質水準の一層の向上に向けて継続的に

取り組んでまいります。

本件に関する当社の取り組みについて、特設ページを通じて情報公開を行っています。

[【モーリシャス環境回復・社会貢献活動についての特設ページ】](#)



漁業者たちと話し合った後

■当社の行っている主な活動

現地に派遣した社員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地の学校訪問、地元家庭へのクリスマスプレゼントの配布、食糧支援パックの配布、当社が寄贈した40フィート型コンテナを改造したコンテナハウスの寄贈式典への出席など、現地でさまざまな活動を継続しています。
自然環境保護・回復プロジェクトと社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境保護・回復プロジェクトとして、山階鳥類研究所、バードライフ・インターナショナル東京の協力を得て、鳥類への影響調査を行っています。 ● マングローブの調査・保全活動で、事故直後に政府の国際緊急援助隊の一員としても活躍したマングローブの専門家・宮城豊彦氏監修の下、モーリシャス沿岸の環境保全活動に取り組むNGO、Reef Conservationのプロジェクトを支援しています。 ● 北海道大学大学院水産化学研究院 助教・東条斉興氏による調査の下、油流出事故により活動を制限された漁業従事者やその家族を支援するNGO、Caritas Mauritiusのプロジェクトに協力しています。 ● 社会・環境プロジェクトへの支援を目的とした基金で、6月にモーリシャスに設立した「MOLチャリティトラスト」は、9月に第一次募集を開始しました。11月に助成開始予定です。日本側で設立予定の認定特定公益信託については現在主務官庁に申請中です。
資機材の調達・現地への輸送	<ul style="list-style-type: none"> ● 事故直後、「WAKASHIO」から漏れた燃料油の回収や除去作業に有用な資材を手配し、緊急輸送を実施しました（2020年8月）。
組織対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の経営企画部内に「モーリシャス環境・社会貢献チーム」を設置しました（2020年9月）。その後、「環境・サステナビリティ戦略部」を設置し、同チームを新部署に移管しました（2021年4月）。 ● モーリシャスに駐在員事務所MOL (Mauritius) Ltd. を開設し、駐在員を派遣しました（2020年10月）。
環境NGO、有識者との対話	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な活動を展開する環境NGOや、環境問題に詳しい有識者の方々にお集まりいただき、二回にわたって、当社のモーリシャスへの支援貢献策に関する意見交換をウェブ上で行いました（2020年9月、2021年9月）。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 「WAKASHIO」座礁・油濁事故を子どもたちに伝えるために制作された、モーリシャス在住の作家アニータ・パチャ氏の児童書「Wakashio the Book」の英語版の出版プロジェクトを支援しました。出版記念式典がMOL (Mauritius) Ltd. のオフィスで行われました（2021年8月）。 ● 当社グループ役職員が事故における社会的責任を再認識し、再発防止に努めることを目的に、国内外のグループ役職員を対象に、事故対応を振り返るオンラインイベントを開催しました（2021年7月）。